音楽科学習指導案

令和　年　　月　日（　）　第　校時（　：　　～　　：　　）音楽室
市立　　小学校　６年　組　　指導者

授業の視点 　グループのテーマに合った音楽をつくる場面において、試行表現をくり返したり、グループ同士で聴き合ったりする活動を行うことは、自分たちの表したい表現に近づかせることに有効であったか。

１　題材　和音の美しさを味わおう
　教材　「星の世界」川路柳虹　日本語詩　コンバース作曲　飯沼信義　編曲
　　「和音の音で旋律づくり」（音楽づくり）【本時】
　　「雨のうた」鹿沼美緒子　作曲

２　単元設定の理由
（１）題材観
本題材は、以下の小学校学習指導要領第５学年及び第６学年の内容によるものである。
A 表現
（１）ウ（ウ）各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身につけること。
（２）ウ（ウ）各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身につけること。
（３）ア（ア）即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。
　　（イ）音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。

【共通事項】　ア　音色、リズム、旋律、音の重なり、和声の響き、調、フレーズ
　　イ　反復、変化、音楽の縦と横の関係

本題材では、合唱を通して和音の響きの美しさを味わったり、器楽合奏を通してイ短調の和音の響きやその移り変わりを感じ取ったりする能力や、和音に含まれる音を使った旋律づくりを通して、和音の響きを味わいながらまとまりのある旋律をつくる力を育てることをねらいとしている。

歌唱教材「星の世界」は和声の流れや和音の響きの変化を感じ取りやすいように工夫し編曲されている。響きの変化を感じ取り、自分たちの声を生かした美しい響きの三部合唱が実現したときの喜びを味わうことのできる楽曲である。

器楽教材「雨の歌」は、５年生で学習したハ長調の和音に加え、イ短調の二つで構成されている。イ短調とハ短調の和音の響きの違いや和音のもつ表情を感じ取る事ができる楽曲である。

児童はこれまでに、５年生で和音の学習を通して、旋律と和音が一体となった響きを感じ取ったり、和音には、旋律に合う和音とそうでない和音があるということを知り、心地よい進行があることを知ったりすることができた。音楽づくりでは、これまでの経験を生かし、和音の響きを味わいながらまとまりのある旋律をつくる力が身につくと考え、本題材を設定

した。

（２）児童の実態（男子１７名　女子１６名　計３３名）

①音楽への関心・意欲・態度

本学級の児童は、音楽に対する意欲が高く、歌唱・器楽の演奏、鑑賞活動に積極的な姿勢で取り組むことができる。しかし、歌唱になると消極的になってしまう児童が数人いるものの、器楽を使用した表現活動は楽器の奏法を一生懸命覚えようとする児童が多く、楽しんで音楽活動に取り組んでいる姿が見られる。

②表現の創意工夫

一学期に取り組んだ音楽づくりでは、グループで材質の違う楽器を組み合わせて、共通事項と関連させながらリズムアンサンブルをつくる面白さを経験している。この学習を通して、グループで作る和音の響きや、音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みに着目し、思いや意図をもって思考させながら取り組ませたい。

③表現の技能

音符や記号、リコーダーの運指など理解している児童は多くいるが、支援が必要な児童も数人いる。しかし、クラス全員で取り組む合唱や合奏は、支援が必要な児童に対し、周りが教えてあげている姿が見られ、できるようになるまで練習する児童が多く見られた。

④鑑賞の能力

音楽を聴く活動は好きだが、自分の言葉で表現ができない児童が多くいる。黒板に常時貼ってある音楽の言葉を参考にしている児童や聴く観点を伝えてあげると、思ったこと感じたことを自分の言葉で表現できる児童もいる。

３　目標

○和音の響きの変化を感じ取りながら、各声部の歌声や楽器、全体の響き、伴奏を聴いて合唱したり合奏したりする。

○和音の含まれる音を用いて、まとまりのある旋律をつくる。

４　評価規準

ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽表現の創意・工夫	ウ　音楽表現の技能	エ　鑑賞の能力
①各声部の歌声や全体の響きに興味・関心をもち、自分の声を調和させて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①歌声の重なり、和音やその移り変わり、音楽の縦と横の関係を聴き取り、その働きが生み出す響きのよさを感じ取りながら、歌い方を工夫して、より美しい響きを自ら求めている。	①互いの歌声を聴き合いながら、バランスに気を付け、友達の歌声と溶け合うように歌っている。	
②ハ長調やイ短調の楽譜を見たり聴いたりして、楽器で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	②楽器の音の重なり、和音やその移り変わり、調の違い、音楽の縦と横の関係を聴き取り、その働きが生み出す響きのよさ	②互いの音を聴き合いながら、和声の響きの違いや旋律の重なり方の違いを生かして、バランス	

③和音の響きや移り変わりに興味・関心をもち、和音に含まれる音や与えられたリズムを使って旋律をつくり、反復や変化、音楽の縦と横の関係を生かしてまとまりのある旋律に仕上げる学習に主体的に取り組もうとしている。	を感じ取りながら、楽器の演奏の仕方を工夫して、より美しい響きを自ら求めている。 ③和音やその移り変わりを聴き取り、その働きが生み出す響きのよさを感じ取りながら、和音に含まれる音や与えられたリズムを使って旋律をつくり、反復や変化、音楽の縦と横の関係を生かして、まとまりのある旋律に仕上げることについて見通しをもっている。	のとれた演奏をしている。 ③和音に含まれる音や与えられたリズムを基に即興的に旋律をつくったり、自分なりのまとまりのある旋律をつくったりしている。	

5　指導と評価の計画（全１０時間）　教材Ａ　「星の世界」
Ｂ　「和音の音で旋律づくり」（音楽づくり）
Ｃ　「雨のうた」

次	教材	時	主な学習活動	留意点・支援点
第１次	A	1	○範唱を聴いたり歌詞を音読したりして、曲全体の感じをつかむ。 ○旋律の動きに気を付け、伴奏の響きを感じ取りながら主な旋律を歌う。	○拡大譜を見て、主な旋律に副次的な旋律が重なっていることに気づかせる。 ○旋律が「２段目と４段目が同じ」「３段目は１・２・４段目と違う」ことに気づかせながら歌えるようにする。
			評価規準（評価方法）　ア①　（観察）	
		2	○響きを確かめながら②と③のパートを歌う。	○音程と和音の響きを確認しながら歌わせるようにする。 ○Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ、V_7の音の確認をハンドベルを使用して和音の重なりを確かめさせる。
			評価規準（評価方法）　イ①　（演奏聴取）	
		3	○互いの歌声をよく聴き、和音の響きやその移り変わりを感じながら合唱する。	○主な旋律を生かすように、それぞれの音量のバランスに気を付けながら歌えるようにする。 ○クラスを半分に分け合唱するグループと聴くグループに分け歌声が溶

				け合っているか確認させる。
			評価規準（評価方法）	ウ①　（演奏聴取）
第 2 次	B	4	○ハ長調の和音を確認し、1音ずつ分担してリコーダーで演奏し響きを確かめる。 ○旋律づくりのイメージがもてるようにテーマを決めて3～4人のグループに分け、お話を考える。	○音が和音に含まれていることを意識して、和音の響きを感じ取りながら演奏させる。 ○４つの場面からなるお話を考えさせるようにする。
			評価規準（評価方法）	ア③（演奏聴取、行動観察）
		5	○２分音符分のリズムを組み合わせ、自分のお話のイメージに合うリズムや音を工夫して旋律を仕上げる。 ○つくった旋律を順番に演奏し、和音の響きを確かめる。	○創作例を紹介して、リズムや音の工夫の仕方に見通しをもたせる。 ○創作過程の中でワークシートに工夫点などを記述させ明確性をもたせる。 ○一人でつくるのが難しい子供は、友達と一緒につくったり、指導者かがその子の思いを引き出しながらつくったりするようにする。
			評価規準（評価方法）	ウ③（演奏聴取、発言内容、ワークシート）
		6 本 時	○グループに分かれ、音楽の流れや響きを感じながらまとまりのある音楽にしていく。 ○グループ内やその他のグループで聴き合い、より音楽表現を深めていく。	○それぞれの場面の旋律がテーマに沿っているかを再確認しながら、1つの音楽をつくるようにする。 ○グループ同士で聴き合ったり、アドバイスをもらったりして表現をより深められるようにする。
			評価規準（評価方法）	イ③（演奏聴取、発言内容、ワークシート）
		7	○グループで練習し、つくった音楽を発表し合う。	○つくった旋律の思いや意図を共有するようにする。 ○お互いの演奏の聴き合いをする。
			評価規準（評価方法）	ウ②（演奏聴取、ワークシート）
第 3 次	C	8	○短調と長調の響きの違いに気を付け、曲全体の感じをつかむ。 ○主な旋律と副次的な旋律をリコーダーで演奏する。	○アはイ短調、イはハ長調と調が変わっていることに気づかせる。
			評価規準（評価方法）	ア②　（演奏観察）
		9	○楽器別の練習で、長調と短調の和音の響きの違いを感じ取りながら、表現の仕方を工夫する。	○自分の音が和音に含まれていることを意識させる。 ○互いの音を聴き合いながら、和音の響きやその移り変わりが美しい音色の演奏になっている聴き合いをする。

			評価規準（評価方法）	イ②　（演奏聴取）
		1 0	○旋律の重なり方を生かし、各パートのバランスを考えて演奏する。	○アとイで主な旋律と副次的な旋律の重なりがどのように違うのか楽譜で確認させる。 ○クラスを半分に分け、バランスよく聞こえるためにはどうしたらいいか話し合い、確かめながら演奏させる。
			評価規準（評価方法）	ウ②　（演奏聴取）

６　指導方針

（本題材を通して）

○１単位時間のねらいを明確にするとともに、題材全体の目標や流れを見通して授業を構想する。

○和音やリズムに関する常時活動としてⅠ、Ⅳ、Ⅴ、V_7の和音に含まれる音を使って、音当てクイズをして和音に慣れさせたり、リズムのカードを使って音符の抵抗感をなくさせたりする。

○学習したことで目標に沿ってふり返りをすることで、何を学んだのか明確にさせ、次の授業につなげる。

（第１次）

○豊かな響きで歌うと同時に、伴奏の響きを意識しながら聴く。

○伴奏の低音は音楽全体を支える重要な役割をもつもので、伴奏の低音と主旋律のみで歌わせるようにする。

○音楽の縦である音の重なりと、横である旋律やフレーズを意識させ、和音の響きの移り変わりを確かめさせる。

○曲に合わせて和音に含まれる音の音色を確認するためにハンドベルを使い、進行する過程で続く感じや終わる感じをつかみやすくする。

（第２次）

○リズムの抵抗感がなくなるように、常時活動としてリズムカードを使用して音符に慣れさせる。

○ストーリーに合った音楽づくりをすることで、思いや意図をもって音楽づくりができるようにする。

○児童の実態に配慮して、できていることを認めながら活動を進めていけるようにする。

○児童が試行錯誤しながら自分の力で達成感を味わわせるとともに、音楽表現への意欲を高め、友達と協力して音楽活動をする楽しさも味わわせる。

○グループや全体で思いや意図を共有し合う場面をつくる。

（第３次）

○アとイの響きが違うことに気づかせ、短調と長調の違いを実感させる。

○楽器の演奏については個人差があるので、できるところまでを認めてあげるようにする。和音の音色に気を付けて、美しい響きを意識させるようにする。

○各パートのバランスを聴き合う活動を通して、鑑賞した児童からの感想を聞く場面を設け、よさや工夫を認め合い、表現をよりよくするための手がかりとして取り入れる。

7　本時のねらい

（１）ねらい　自分たちの工夫した表現を伝え、お互い聴き合ったり、友達からのアドバイスをもらったりして、テーマをもとに自分たちの音楽をさらに深める。

（２）準備　児童：教科書、プリント、リコーダー、筆記用具、アドバイスカード
教師：リズムカード、拡大プリント

（３）展開

学習活動	支援及び留意点	時間	観点　評価項目（方法）
１．リズム打ちの常時活動に取り組む。	・本時の学習に意欲的に取り組む雰囲気をつくる。 ・電子オルガンの機能を使ってリズムのテンポを取りやすくする。	５	
２．本時の学習課題をつかみ、学習の見通しをもつ。			
グループで何度も試したり、友達のアドバイスをもらったりしてテーマに合った旋律を完成させよう。			
３．グループ内で聴き合ったりテーマのイメージに合っているか見直しをしたりする。	・自分たちがつくった音楽がテーマに近づいてるか確認できるようにする。	１５	【イ－③】 ・和音やその移り変わりを聴き取り、その働きが生み出す響きのよさを感じ取りながら、和音に含まれる音や与えられたリズムを使って旋律をつくり、反復や変化、音楽の縦と横の関係を生かして、まとまりのある旋律に仕上げることについて見通しをもっている。
４．グループ同士で聴き合い、アドバイスやコメントを伝える。	・テーマに沿ったお話を発表し、班の思いや意図を伝えられるようにする。 ・アドバイスカードをもとに、聴くポイントをおさえて聴けるようにする。	１５	
５．グループ内に戻り構成し直す。	・友達からのアドバイスを生かし、表現をしながら試していけるようにする。	５	
６．本時のふり返りをする。	・めあてに沿って、本時の学習を振り返らせる。 ・次時の発表に繋げられるように音楽がつくれたことを賞賛し意欲を高めさせる。	５	
〈表れてほしい児童の意識〉 ・自分たちのグループは、○○を使用したことで、お話にあった仕上がりになってきたな。 ・選ぶリズムによって、色々な雰囲気を出すことができるのだな。 ・次回の発表に向けて、さらに△△を工夫するとよくなるかな。 ・自分たちの工夫した表現を伝え発表したことで、自信がついたな。			